

CAMPUS KOSEI

キャンパス こうせい

vol.18



野西高 祇園まつりへ参加



八戸大学 全国本大学野球選手権応援団



光星高校 チアリーディング部東北大会優勝

Contents

■ 八戸大学

- ・硬式野球部 第59回全日本大学野球選手権ベスト4
- ・「八戸ベンチャーサミット2010」開催
- ・10そうけん土曜講座
「八戸を元気にするドリームセッション」開催

■ 八戸短期大学

- ・看護学科 第1回宣誓式を挙行
- ・八戸大学・八戸短期大学図書館の短大分室が仮オープン
- ・幼児保育学科 砂浜彫刻を開催

■ 光星学院高等学校専攻科

- ・資格取得にチャレンジ (自動車科)
- ・新カリキュラムによる施設実習 (介護福祉科)

■ 光星学院高等学校

- ・アクティブスクール学習編 大盛況
- ・チアリーディング部 東北大会優勝

■ 光星学院野辺地西高等学校

- ・のへじ祇園祭り参加
- ・サイエンスフェスティバルに参加



八戸短期大学 看護学科 宣誓式

八戸大学

今年度で3回目となる大学・短期大学合同企業研究会、昨年度は就職ガイダンスの関連として土曜日・休日に開催されていたものを、今年度は5月24日(土)～28日(金)までの5日間に渡り、一日に5～6社の参加企業に絞り、希望する学生との説明の時間を大幅に増やした。結果、どの学生も企業側との話しでは内容の濃い



平成22年度 八戸大学・八戸短期大学合同企業研究会

時間を取る様子が伺えた。

今回の研究会は、平日の授業の合間を縫っての開催という事で、学生も授業を休まなくても休み時間に参加できると好評であった。昨年を上回るのべ145名の大学生や短大生が会場に訪れていた。

参加企業も、現時点で採用活動を行っている29社、医療・福祉業界や情報・通信、製造業、外食産業などといった多種にわたる業界から参加していただきました。

学生達は、積極的に関心のある企業のブースを次々に訪れ真剣なまなざしで説

明に耳を傾けていました。

企業の採用担当者も一人でも多くの学生と話がしたい、良い学生にめぐり合いたいと学生を見つめ熱のこもった説明をされていました。

その双方の熱心さが会場にあふれ溢れんばかりの真剣な雰囲気をかもし出し、いつしか終了時間がきたのも忘れさせている場面もありました。

参加した多くの企業担当者からは、「参加してよかった」「いい学生にたくさん会えました。是非エントリーして欲しい」と希望の持てる感想をいただきました。

劇的勝利で全国ベスト4！

— 第59回全日本大学野球選手権 —

明治神宮球場で行われた第59回全日本大学野球選手権準々決勝対北海道大学戦で、田代将太郎選手(ビジネス学部3年東海大四出)が延長14回、サヨナラ本塁打を放ち、劇的な勝利で6年ぶりのベスト4に進出した。

5月に行われた北東北大学野球春季リーグ戦ではエースの塩見貴洋投手(ビジネス学部4年 帝京第五出)の防御率0.00という活躍もあり、10戦全勝で3年ぶり6度目のリーグ優勝を果たし第59回全日本大学野球選手権大会出場を決めた。

全日本大学野球選手権では初戦、東京ドームにおいてプロ注目の投手を率いる仏教大学に3対0で勝利し準々決勝に

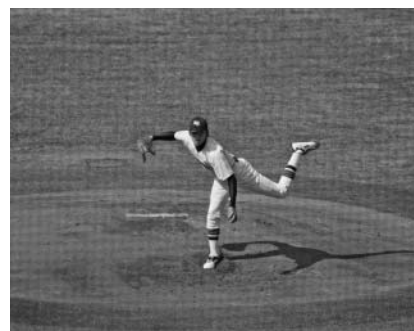
進出。

準々決勝では、明治神宮球場に場所を変え北海道大学と対戦。

先制はしたものの、追いつ追われつの緊迫した試合となり最後はエースの塩見投手が登板し、延長戦に突入する総力戦となった。

延長に入っても、チャンスを活かせず苦しい展開が続き延長14回までもつれたが、最後は田代選手の本塁打により4対3で勝利し、6年ぶり2度目の準決勝進出を決めた。

準決勝では優勝候補の東洋大学に敗れはしたが全国の強豪大学と互角の戦いを見せ、八戸大学の存在感を示した。



ブンパイヤーさん日本語研修を終え帰国

タイ国からの日本語研修生、ルンティワー・ブンパイヤーさんが八戸大学における約2ヶ月の日本語研修を修了し帰国した。



ブンパイヤーさん(通称ペーン)は、タイ国のチェンマイ県にあるファーイースタン大学の観光経営学科の4年生で日本語科目の講義を受講しているところから今回、日本語を学ぶ為に本学の日本語研修生として来学した。

これで昨年来学したマニラットさんに続いて、二人目となる。

4月に来学した際には、ほとんど日本語を話せなかったブンパイヤーさんは日本語研修プログラムを受けながら、新入生対話合宿やワンワールドサークルにも参加し徐々に日本語が上達してきた。

研修プログラムの最後は、故郷タイ国チェンマイ県のプレゼンテーションを日本語で行い、研修の成果を披露した。

研修最終日(6月4日(金))の日本語研修修了セレモニーでは修了証書授与とパーティが行われ、八戸大学で知り合った友人らと別れを惜しんだ。

ブンパイヤーさんは「八戸大学の先生や学生さんは皆優しい。とても楽しく勉強ができた。また日本にかけがえのない友人もできた」と語り、6月5日帰国の途についた。

新入生対話合宿で「キャリアサポートプログラム」を実施

毎年恒例である新入生対話合宿が、4月27日・28日（一泊二日）、岩手県宮古市にある「グリーンピア三陸みやこ」で実施された。

この合宿は、新入生が相互間の理解を深めるとともに教職員、リーダー学生との親睦を図ることを目的として行われている。特に今回の対話合宿では、上級生との対話により、やる気を引き出す「キャリアサポートプログラム」をキャリアサポート研究会、硬式野球部、校友会のメンバーで構成されたリーダー学生が中心に実施された。

「キャリアサポートプログラム」では、最初の第1ステージのアイスブレイクで、新入生の緊張をほぐし、積極的に参加す

る気持ちをつくり、新入生同士が仲良くなるためにミニゲームを行った。その後の第2ステージではリーダー学生が自分の体験からくる「成功談」「失敗談」などの話を新入生に語り、最後の第3ステージにおいて、先輩であるリーダー学生と語りながら自分の目標などを考えさせ、ワークシートに具体的で明確なものを記入させた。新入生たちは、リーダー学生と談笑しながらも自分の目標設定の基になるワークシートを真剣に完成させていた。

二日目の最終日には宮古市田老支部ゲートボール協会の協力

を得てゲートボールの講習会と大会が開催され、新入生たちは一喜一憂しながらゲームを楽しんだ。



薬物乱用の怖さを改めて実感

夏季休暇前に行われた「学生生活に係わる講演会」において覚醒剤や大麻を使用した場合に起こる悲劇などが説明され

改めて薬物乱用の怖さを実感した。

講演会は、八戸警察署刑事第二課課長の高屋保幸警部を講師としてお招きし7月28日(水)320講義室において「健全な学生生活を過ごすために」というタイトルで行われ、1年生および教職員約100名が講演会に参加した。

講演では高屋講師が大麻や覚醒剤などを所持しているだけで犯罪になることや使用すると身体が蝕まれ、幻覚症状を起こしやがて死に至ってしまう場合があるので決して薬物に手を染めてはいけないということを訴えた。

また薬物乱用の危険性を訴える実在した薬物事件のDVDを上映し、最後は22歳の大学生が薬物を使用してしまったために、周りの人たちが家族に迷惑をかけたことや薬物を使用した場合の苦しみを綴った手記を読み上げて講演会を終了した。

参加した学生たちからは
「薬物の勧誘は友人といえどもはっきりNOと断る。」
「薬物は絶対にやらない」
「薬物の恐怖を改めて感じた」
と感想をもらし、薬物乱用が危険であることを確認していた。



「みる」ことの大切さを学ぶ

～第1回交通安全講習会～

4月7日(水)520講義室（500人収容）において八戸大学・八戸短期大学の学生を対象とした今年度第1回目の交通安全講習会が開催された。

この講習会は新入生を迎えたこの時期に毎年開催しており、今年は青森県警察「交通安全教育」技能指導官 大丸特久剛氏を招き、『「みる」ことの大切さ』をテーマとした講習が行われた。

大丸氏は長年の交通安全指導の経験から、交通事故防止の基本は「見る」ことであり、その「見る」ということは決し

て特別なことではなく、安全を確保するためにあらゆる方向を見ることである。大事なことは「意識して見なければ見えない部分」など周囲の状況把握に務めることが重要であり、そのためには、まっぴんなく公平にいろんな方向を見る必要がある。と熱く語った。

参加した学生たちは、運転中の「みる」の意味や大切さについてなど熱心に耳を傾け、日頃からの安全運転に対する意識を高めた。





学 生 大 会 開 催

5月7日(金)320講義室において平成22年度学生大会が開催された。

学生大会では、阿部裕輔学友会執行委員長の議事進行のもと、平成21年度事業報告、決算報告、会計監査報告がされた後、平成22年度事業計画(案)、予算(案)、サー

クルのクラブ昇任が審議され、それぞれ承認された。

また、学生大会終了後には、新入生のクラブ・サークル団体への申込み手続きや今年度行われるイベント案内も行われた。

「八戸ベンチャーサミット 2010」開催される

総合研究所主催の「八戸ベンチャーサミット2010」が、平成22年6月4日に八戸パークホテルで開催され、県内外から約200名が集った。ベンチャーサミットは、八戸地域活性化を目的としたコミュニティ「八戸ビッグバレー」との共催により、首都圏で活躍している経営者らの講演やトークセッションが行われた。

開催にあたり大谷真樹総合研究所長が挨拶、司会に藤川優里八戸市議会議員(総合研究所特別研究員)が加わりベンチャーサミットスタート。基調講演で小池聡氏(ビットバレー提唱者 3Di株式会社代表取締役社長)は、「Right to Challenge, Freedom to Fail ～チャレンジする権利と失敗する自由～」をテーマ

に自身の成功・失敗談を交え、チャレンジすることの重要性を訴えた。

続いて事例講演では、森本登志男氏(マイクロソフト株式会社公共営業本部 自治体営業部 シニアマネージャー)が、徳島県勝浦群上勝町でのICT活用事例を紹介。

トークセッションでは、勝屋久氏(IBM ベンチャーキャピタルグループ日本代表)の進行により総勢18名の経営者や各種専門家が紹介された。最後に小林真八戸市長からのご挨拶をいただきベンチャーサミット終了。

終了後には懇親会も行われ、首都圏と八戸地域を結ぶ有意義なイベントとなった。



「八戸大学」OB&OG訪問 part18



(株)ヤクルト球団営業部
荒田 達也さん

プロフィール

横浜隼人高校卒。八戸大学在学中は硬式野球部マネージャーとして活躍した。
卒業後(株)ヤクルト球団営業部勤務

Q：学生時代の思い出話を聞かせてください。

A：練習の参加で、始めて八戸に来た

とき、寒くて雪が降っていました。次の日の朝起きたら、膝くらいまで雪がありびっくりしました。野球部のマネージャー・学生コーチとして野球が仕事みたいな4年間でした。

Q：初の全国大会出場の思い出などを教えてください

A：初めて全国の切符を勝ち取ったとき。監督の親しい関係者への笑顔が印象的でした。1回戦で負けましたが、部の新しい歴史を作ることができたこと、選手たちを全国に売り出すことができ、うれしかったです。ベスト8に進出した翌年は初戦勝ったときに優勝できる気がしました。八大の名を全国に知らしめることができました。

Q：ヤクルト球団に就職。球界最年少でスワローズ2軍マネージャーについた時の話を聞かせてください。

A：24歳で2軍マネージャーとなりまし

た。「2軍に落ちてきたら早くあがれ。1軍に上がったなら落ちてくるなよ」と思いで、選手と同じ気持ちになってやっていたかなければならない仕事でした。2軍は、ここでだめだったら終わりで、華があるわけでもないですが、活躍し1軍にあがっている人を見るとうれしいです。ちょっとでも2軍のことを知ってもらうように、毎日ブログをつけ情報提供しました。

Q：最後に卒業生・在学生にメッセージをどうぞ

A：学生の皆さんには、いろんな人と付き合うこと、学生時代のことをいつまでも忘れないでほしいこと。学生時代に知り合った人は卒業後もずっと付き合いしてほしいと思っています。教職員の皆さんには、忙しいとは思いますが、現役学生の試合応援に来てほしいと思っていますし、OB選手の試合も見に来てほしいと思っています。また野球に関係なくいつまでも僕たちの応援をしてほしいと思っています。

「ルパンの奇巖城」八戸大学ロケ

平成23年5月公開予定の映画「ルパンの奇巖城（きがんじょう）」（秋原正俊監督）の撮影および制作発表が平成22年6月16日、八戸大学で行われた。同作は、モーリス・ルブランのルパンシリーズ「奇巖城」が原作で、声優の山寺宏一さん、女優の岩田さゆりさん、タレントのウド鈴木さんが出演する。

この日は、八戸大学・八戸短期大学図書館を撮影場所に、女子大生探偵役の岩田さんが、八戸大学教授役のウド鈴木さ

んらと協力して、ルパン役の山寺さんを追い込むシーンなどが撮影された。撮影には、八戸大学・八戸短期大学の学生20名もエキストラ出演。学生は、秋原監督の指示を熱心に聞き、役を演じていた。映画撮影は八戸大学の他、弘前市や盛岡市でも行われた。



「'10 そうけん土曜講座」修了



6月19日から7月17日にかけて総合研究所市内オフィスにおいて開催した「'10そうけん土曜講座」全8講義（土曜日開催）が修了した。

本講座は地域住民に生涯学習の一環として大学レベルの知識と学習機会を提供することを目的に一昨年から開催している。受講料は

無料。今年は、のべ139名が受講した。

講義は、八戸大学、八戸短期大学の教授、准教授、外部講師により「セクシャリティ」「引きこもりなど」「健康」「平安女流文学」「アメリカ・中国の文化、世界事情」など多岐にわたる内容で行われた。

受講者は、あおり県民カレッジ単位認定講座とあり手帳を持って参加する方や一昨年から連続で受講しているといった方もみられ一様に講師の話に熱心に耳を傾けた。また、講義後は質疑応答が活発に行われた。

'10 そうけん土曜講座 「八戸を元気にするドリームセッション」開催

7月31日(土)八戸商工会館において総合研究所主催による「八戸を元気にするドリームセッション」―三社大祭の前夜祭に八戸の夢を語ろう!!―が開催された。地域住民の方々や光星学院高等学校普通科の生徒らが参加し地域活性化について考えた。参加者は110名。

講演は「'10そうけん土曜講座」の閉講式を兼ねて開催。基調講演では、ラジオ・TV等で活躍の小川もこ氏が、「風の人、土の人」と題し、47都道府県を仕事でまわった経験をもとに八戸の魅力について語った。また、街に大学があるのとなないのでは若者の求心力が違うと話し

た。八戸大学での小川氏の講演は平成10年以来2回目となる。

その後、「私が地域にこだわる理由(わけ) PART II」をテーマに、八戸短期大学客員教授三村三千代先生、総合研究所特別研究員藤川優里先生、総合研究大谷真樹所長がクロストークを行い、地域資源を再認識し地域の活性化のために行動しましょうと訴えた。

'10そうけん土曜講座閉講式では、全9講座中7講

座以上出席の7名が修了証書を受領した。



「同窓会新会長に堤氏、父母の会新会長に河村氏就任 大学 30 周年に向けて支援を確認」

八戸大学後援会理事会と八戸大学同窓会役員会・評議員会が、平成22年6月26日(土)に八戸第1ワシントンホテルで開催された。後援会理事会では、昨年度・今年度の事業報告・計画等の各議案について全て承認された。30周年記念事業についても説明がなされた。

同窓会役員会・評議員会でも、昨年度・今年度の事業報告・計画等の各議案について全て承認された。また、会則改

正と役員改選が行われ、会長の柳町仁氏が顧問へ、新会長には堤静子氏が就任した。新役員も決定し新体制となった。

八戸大学父母の会の総会は、平成22年7月3日(土)に八戸大学学生会館で開催された。

昨年度・今年度の事業報告・計画等の各議案について全て承認された。また、会長の家口和夫氏が任期を終えたことに伴い、新会長には河村了氏が就任し、新

役員も決定した。河村新会長は「大役を引き受け緊張しているが、これまでの会長が築いてきたものを更に発展できるよう努力していきたい」と挨拶した。総会后、教務・学生・就職の各担当職員による保護者に対する個別相談が行われ、成績や学生生活だけでなく、就職についても熱心に質問が出された。



八戸大学後援会理事会



八戸大学父母の会総会



八戸大学同窓会役員会・評議員会

第 20 回 法 人 ゴ ル フ コ ン ペ

学校法人光星学院チャリティーゴルフコンペは、平成22年7月30日八戸カントリークラブで開催した。同ゴルフコンペは、今回で20回目の記念コンペとして開催し多くの方々からご参加を頂いた。

また、同ゴルフコンペは法人内の各教育施設が普段からお世話戴いている企業及び外郭団体（後援会・同窓会・父母の会）等の方々のご理解を賜り運営している。

今年のチャリティーゴルフコンペは、悪天候のため前半9ホールで終了となる

残念なゴルフコンペでした。今年度の収益金は、八戸赤十字病院（瀬尾喜久雄院長）に寄贈。コンペ終了後の表彰式の席上で、中村覚理事長が同病院の照井憲明事務部長に目録（車いす10台）を贈呈した。

なお、第20回学校法人光星学院チャリティーゴルフコンペは、橘 政人様（日本電気工業(株)）が優勝した。



八戸大学・八戸短期大学認証評価統括本部が組織される

平成21年度の認証評価受審を控えて、平成20年度より八戸大学・八戸短期大学認証評価統括本部が組織された。併せて事務局に認証評価支援室が設置され、教職員一体となった全学的な自己点検評価活動が可能となった。また、八戸大学・八戸短期大学認証評価統括本部の委員長は、大学短大運営会議議長を兼ねており、自己点検評価に関する諸問題に組織的に対処できる体制が敷かれることとなった。

平成20年度中には、未整備であった諸規定が整備され、受審に備えられた。こ

のことは、このたびの自己点検評価に伴う組織的効果における最大の収穫と言える。ただし、今回は自己点検評価に基づく他の部門に対するフィードバックが十分に行き届くことはできなかった。次回の認証評価までに期待される課題である。

平成21年度に入ってから、平成20年度自己点検評価報告書の作成作業は、教職員各位の協力もあって、予想よりも円滑に行われた。9月の面接調査も大きな問題もなく、スムーズに適格認定を受けることができた。その最大の要因は、受審

の1年以上前から着々と準備を進めたことと、資格取得のための丁寧な指導や密接な学生支援など当初から期待された分野の熱心な活動が評価員に好印象を与えたことがあげられる。そのこともあって、心配された分野もあったが、評価員からは好意的なアドバイスも見られた。今後は、良い評価を受けた部分をさらに伸ばすとともに、自己点検評価が組織的効果をあげることを期待したい。



スポーツ祭り開催

学生会主催のスポーツ祭りが6月2日(水)の4時限目に短期大学前の運動場で開催された。このスポーツ祭りは、ゼミ毎に分かれて対抗するという形式で実施しており、ゼミ生相互ならびに教員との親睦をスポーツで深めてもらうことを目的とし、毎年開催されている。

今年の種目はしっぽ取りゲーム。1ゲームを3分間とし、1ゲームに対しゼミの中から8人を選出し、全部で3回ゲームを行った。取ったしっぽは、1ゲーム毎に自分たちのゼミの段ボールへ入れ、自分たちのしっぽの数と取ったしっぽの総数で順位を決めるというルールで開始された。

はじめは、嫌々ながら動いていた学生

たちも徐々に真剣にしっぽを取るようになり、応援する声やしっぽを取る、取られないように頑張る学生たちの声が運動場に響き渡り、白熱したゲームが展開された。総合順位では幼児保育学科の橋本ゼミが1位となり今年度スポーツ祭りの



栄冠を手にした。

授業時間数確保のため、今年度のスポーツ祭りは短い時間内で行われたが、学生たちにとって有意義な時間となり、学科の枠を超えて親睦を深めたようである。



安全講習会で自己防衛意識が向上

7月9日(金)520講義室において、青森県警察本部生活安全課の警察官6名が来学し、防犯に関する安全講習会が「犯罪被害に遭わないために」というテーマで

開催され、短大1年生約200名が参加した。

講習会では、女性安全推進係長 黒滝和代警部補が青森県内の性犯罪やストーカー行為等の発生状況の認知件数と被害

者の統計をグラフで説明した後、わいせつ、ちかん、ストーカー等の被害に遭わないための留意点、日常生活でのポイント、被害にあったときの対処法などの実例が紹介され日常生活では、いつ犯罪に遭遇するかわからないため、周囲に対して無警戒無関心などは油断大敵であると説明し防犯ブザー等の防犯グッズを携帯するよう促した。また、犯罪にあたり目撃した場合はすぐに警察に届けたり相談をするように求めた。

講習会の最後は、身に危険が迫ったときの逃げる方法として警察官による護身術の実演講習が行われた。

学生たちは、護身術を実際に体験しながら自分の身は、自分で守らなければならないと自己防衛意識を高めていた。



第1回宣誓式

看護学科

特別記念講演に
矢野正子先生を迎えて

看護の道を志し八戸短期大学看護学科の1期生として入学、1年余りの基礎看護教育を終えた学生65名が、看護の専門性と責任を再認識して看護の道を歩むよう、平成22年度八戸短期大学看護学科第1回宣誓式が5月15日(土)、八戸大学会館において举行された。宣誓の儀では、看護学科1期生がキャンドルを手に本学の建学の精神である「神を敬し人を愛する」ことに基づき、学び続けることを誓い、宣誓の詞が述べられた。宣誓の儀に続き、蛇口浩敬学長が「患者との調和のとれた人間関係が築ける看護師になってもらいたい」と式辞、続いて社団法人青森県看護協会齋藤文子会長の祝辞が述べられた。

その後、学生代表お祝いのことばを看護学科1年の松橋奈美さん、宣誓者代表お礼のことばを看護学科2年の土田怜さんが述べた。最後にいつくしみと愛と学歌を斉唱し、宣誓式は終了した。

引き続き、宣誓式特別記念講演が開催された。はじめに看護学科長蛭田由美より講師の矢野正子先生(聖マリア学院大学学長)を紹介、矢野正子先生は「近代看護の歴史を通して望む看護の未来」と題し、「看護実践理論の開発をめざして、

Florence S. Wald, Robert C. Leonard.」
「高度実践看護の明日」の資料をもとに講演を行った。



日本サッカー協会公認キッズリーダー養成講習会が行われる



平成22年度より、幼児保育学科1年生配当科目である「健康科学Ⅰ」の講義内で、「日本サッカー協会公認キッズリーダー養成講習会」が行われた。この養成講習会では、所定の講習・実技を受講することで「日本サッカー協会公認キッズリーダー」の資格が取得でき、一度取得すると永久的に資格を保持することができるものである。

時代の流れの中で、子どもたち

を取り巻く環境も随分変わってきており、キッズリーダーは、子どもたちが最初に出会う指導者であるため役割も大きく、日常的に身体を動かすことを思う存分楽しむことができるよう、キッズリーダーがサポートすることが一役となっている。

講義では、基礎理論(1コマ)と実技指導(2コマ)を通して、「時代とこども環境の変化」「こどもの発育発達概観」「こどもたちへの接し方」「スキルゲーム」「フェアプレー」等々、学生達はキッズリーダーに必要な知識を学んだ。

図書館短大分室(仮称)がついにオープン!

6月7日(月)から八戸大学・八戸短期大学図書館の『短大分室(仮称)』が仮オープンしました。以前から「短大の校舎の中に図書館があれば便利なのに…」という学生や先生方からの要望がありましたが、学内各位からのご協力および八戸短期大学後援会並びに同窓会からの多大なるご支援のおかげをもちまして、今度ついに短大分室をオープンすることができました。

当初は「ここは何?」「私たちも利用できるの?」と、遠巻きに分室を廊下か

ら眺めていた学生たちも、仮オープンして約2ヶ月が経ち、徐々に短大分室を利用してくれるようになりました。今はまだ仮オープンということもあり、本の冊数も少なく開館時間も短いのですが、9月には本格的にオープンする予定です。夏休み中は一旦閉館し、9月の本格的なオープンに向けて分室内を整備します。また、絵本等を新たに追加購入して備えるほか、図書館から短大分室に図書を千冊程移管する予定です。開館日は「毎週月・水・金 11:45~15:50 火・木

11:45~13:00」となっていますので気軽に短大分室をご利用下さい。



メイクアップセミナー

平成22年6月7日(月)124講義室において、平成23年3月卒業予定のライフデザイン学科2年生対象のメイクアップセミナーが開催された。これは就職指導の一環として行われたものである。

通常であれば座学の90分という講義形式であるが、この日は就職戦線に備えて「好感の持たれるメイク方法」をプロの

方から教えていただいた。講師には資生堂販売株式会社東北支社・青森オフィスのビューティーコンサルタント長内暁子氏をお招きし、メイク落としから高感度アップのためのメイク方法を学んだ。初めは周りの目を気にしながら、それでも鏡とにらめっこしながらの学生達だったが、時間が経つにつれてどの学生も真剣

な眼差し変わり、いつものファッションメイクとは違う、社会人としてふさわしいメイク方法を覚えようとする意気込みが感じられた。セミナーが終わるころには笑顔が見られるまでに変化！是非ともこの体験が活かされる日が来ることを願うばかりである。



砂

浜

彫

刻

7月21日(水)に幼児保育学科の学生185名が八戸市鮫町にある白浜海岸で、砂浜彫刻制作に取り組んだ。この砂浜彫刻制作は、幼児保育学科の学科行事として毎年行っており、今年で9回目の実施となる。子どもの好きな砂遊びを学生が実際の体験を通して、子どもの気持ちをより深く理解できる場としている。また、学生たちが八戸市の豊かな自然から多くの学びがあることを知り、自然の素晴らしさなどを将来子どもたちに伝えられる保育者になることを目指している。

今年のテーマは「青」。ゼミごと11グループに分かれ、事前に紙粘土で模型を作りイメージを膨らませた学生たちは、スコップで穴を掘ったり、砂を盛り上げたり、バケツで運んだ海水で砂を固めたりと、約2時間協力して作品の制作を

行った。白浜海岸には、テーマに沿った様々な作品が並び、周囲の観光客を賑わせていた。砂まみれになった学生たちは、完成された作品を取り囲んで記念撮影を行ない、夏の白浜を満喫している姿が見られた。



光星学院高校専攻科

自動車科では平成21年度からさまざまな資格取得に取り組んでいます。

私たちは1年次にガス・アーク溶接、普通救命救急講習、低圧電気取扱安全衛生教育講習、小型移動式クレーン運転技能講習などを全員が取得してきました。



今年度は中古自動車査定士、危険物取扱者、損害保険募集人資格などを希望者が

資格取得にチャレンジ！

が受験しています。

査定士は3日間の講習のあと、試験では車の現状が書かれた問題を見て査定をします。

危険物では、燃焼および消火に関する基礎知識や危険物の性質と危険性などの内容を学び、損害保険では車両保険はもちろんのこと、災害保険などの内容や注意点および義務についても勉強しなければなりません。

いずれも難易度が高く、全員合格とはなりませんでした。この機会に学んだ知識は自動車関係の業界にすむ私たちにとっては決して無駄にはならないと思っています。

後輩である1年生からはソーシャル検定も始まり、社会人としてのビジネス・マナーを身につけ、即戦力となれるように頑張っていきたいと思っています。

(自動車科2年 佐々木 憲)

新カリキュラムによる施設実習

* 一自己と向き合って *

介護福祉科では平成21年度入学生から新カリキュラムによる実習が行われています。

実習(Ⅰ)では、多くの介護サービス提供の場を体験しました。

2年次の実習(Ⅱ-1)は介護過程の展開ということで、全く違った実習でした。

私は実習中多くの壁にぶつかりました。人とのつき合い方・関係の取り方がうまくできず、受け持ちの利用者の方との関

係も決して良好とは言えませんでした。

相手を知ろうという思いばかりが先行し、自己開示をすることができなかったのです。

利用者の方は私の状態を見抜いていたのですが、私はそれに気づかず、眉間にしわを寄せる等の非言語的な部分を無視して自分の欲求を押しつけていました。

しかし私は過ちに気づき、介護者主体の介護ではなく、利用者主体の介護であるということを念頭に介護計画を立案し、指導者から良い評価をいただくことができました。

学校に戻り事後指導を受けた際に、他者との関係において距離を置いて接している自分に気づき、最後の実習では自己防衛することなく自分を磨き、人間的に成長したいと思います。

こうした課題を克服していき、私の望む真の介護福祉士になれるように努力していきます。

(介護福祉科2年 佐藤琢磨)



この春、13年間従事したIT関連の仕事から離れ、介護福祉科へ「委託生」として入学しました。

社会経験の豊かな23名の委託生や、高校を卒業したばかりのフレッシュなクラスメートに囲まれ、新鮮な思いで充実した毎日を送れることに感謝しています。

介護には以前から関心があり、前職在職中にホームヘルパー養成講座を受講し、訪問介護実習で出会った利用者の方



久しぶりのキャンパスライフー委託生としてー

との交流が、介護福祉士を目指すきっかけとなりました。

その方は、一人暮らしの男性でしたが、玄関にあやめがきれいに生けてあり、花の咲く時期にはいつも新しい花で待っていてくださるそうです。

そのときの温かな心のつながりや、笑顔がとても印象深く残っています。

介護職は、老いや病気になるのは障害のある方への支援、その人らしい生活を送ることを支え、生活の質を高めるために援助する意義深い仕事だと思い、チャンスがあれば介護職に就きたいと考えてい

ました。

早いもので入学してから4カ月、先生方の授業内容はもちろん、体験談や雑談でさえも貴重な知識として学び、また、視野を広く持って社会情勢にアンテナを張ることで授業への取り組みも真剣なものになります。

これからボランティア活動や施設実習などに向け、目的意識を持つと同時に健康管理に留意する必要性も感じています。

介護福祉士の資格を取得できるように2年間頑張っていきます。

(介護福祉科1年 中野 潤)

オープン・キャンパスのスタッフとして

7月10日(土)に開催されたオープン・キャンパスで、自動車科体験実習の指導を任されました。

昨年は、出身校である久慈工業高校の3年生という立場で専攻科オープン・キャンパスに参加し、全く触れたこともないエンジンの分解・組み立てを体験しました。

その経験から、今年のオープン・キャンパスでは教える側の立場で参加です。

専攻科に入学してから3ヵ月以上になりますが、まだまだ知識も浅く技術もないので、分かりやすく間違わずに教えることができるのか不安なまま当日を迎えました。

私の担当は光星高校3年生の二人です。自分一人で組み立てるのは違い、教えながらの実習はとても難しく、部品の向きや組み忘れのないように注意しながら進めていきます。

生徒さんは自ら率先して作業を行い、分からないところがあれば質問もしてくれましたので、予想以上に順調な仕上が

りとなりました。

組み立てが終わり、エンジン始動です。

無事に始動

すると生徒さんも喜んでくれて、何度もかけたりしてうれしそうでした。

自動車科でたった一人の女子ですが、先生方や周りのみんなに助けられ、このような経験もできる専攻科に入学してよかったと思っています。

(自動車科1年 船渡夏美)



アクティブスクール 学習編 大盛況!!

アクティブスクールは、中学生の皆さんに授業を実際に体験してもらうことによって、本校を理解してもらうこと、さらに進路決定の参考となるようにという趣旨で開催している、本校を代表する大イベントである。

7月30・31日両日の参加者は、他の高

校と体験入学の日程が重なっている中で、引率・保護者の方を含めると800名を超えるものとなった。これは、本校に対しての関心の高さの表れととらえることができる。

4学科8コースで19の講座を開設したが、特に人気が高かったのは保育Iコー

スで、定員を大幅に超える盛況ぶりであった。次に普通科の『進学』をテーマにした授業に人気があり、普通科は進学の科であるという面が定着してきたように思われる。

今回は学習編の開催であったが、8月22日には部活動編の開催を予定している。



現場実習で実社会を体験 ビジネス科・工業技術科

ビジネス科3年生26名は7月5日から3日間、工業技術科（自動車整備士コース・工業技術コース）3年生61名は7月5日から5日間にわたり現場実習を行いました。

ビジネス科の生徒は製造業、小売業、サービス業、公共施設など多岐にわたる企業や事業所で実習を行いました。実際



にレジでのお客様の対応、和菓子等の製造販売、商品のシール貼りや袋詰め、イベントの後始末や芝刈りなど様々な仕事に本当に一生懸命取り組んでいました。また、工業技術科の生徒も建築業、土木業、自動車産業など日頃の授業を活かして、現場で汗を流しました。実際に自動車の整備、土木作業、機械加工・溶接、電気工事配線作業など、直に現場に触れることができました。

生徒達は短期間ではありましたが、仕事の大変さを学び、仕事に対する厳しさを肌で感じるができたと思います。この貴重な体験を、今後の就職活動や進路決定に向けて大いに役立ててくれることと思います。



最後に現場実習にご協力頂きました、各企業・事業所などの皆様におかれましては、お忙しい中大変ありがとうございました。この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

平成22年度 関東地区就職者激励会開催

6月18日(金)東京品川駅近くにある中国料理『高輪』において、平成22年度就職者激励会が開催された。卒業生にとって、大都会の生活に戸惑いながらも、仕事に本格的に取り組む始めると同時に社会の厳しさに直面するこの時期に毎年行っている。今年は、同窓会の都合により関東地区の就職者激励会だけを開催することになったが、同窓会関東支部から支部長の海野岩美（S40年度卒）様のほか三浦光一（S48年度卒）様、佐々木忠雄（S60年度卒）様の出席をいただいた。さらに、今年の就職者だけでなく、昨年の就職者及び企業の方にもご案内を申し上げ参加して頂いた。

法官新一校長、同窓会関東支部長、そして雇用企業を代表して第一ビルメンテナンス代表取締役三浦光一様からの激励の言葉に耳を傾ける卒業生の姿には、社会人らしさが表れていた。卒業生一人ひとりの立派な挨拶は、3月に卒業して3ヶ月ほどしか経っていないとは思えないほど、成長を感じさせるものであった。



また、就職先からも、とてもよくして頂いている様子が伺われた。

卒業生に手渡された、担任や部活の顧問等からの、写真付きのメッセージには、思いのほか喜んでくれ、他の先生からのメッセージも欲しかったとのリクエストもあったほどであった。

少人数ではあったが、賑やかな中にも

終始穏やかなムードで、全体的に時間にも余裕があり、企業の方々と情報交換もでき大変有意義な会になった。卒業生たちも楽しそうに、仲間たちと親睦を深めていた。きっと今後の励みになることと思う。

最後に、お忙しい折ご出席くださいました皆々様に心より感謝申し上げます。

高山良二氏講演会

高山良二さんと本校との結びつきは、カンボジアへの井戸寄贈から始まりました。そして、カンボジア王国バタンバン州にあるカムリエン高校との姉妹校協定締結、カンボジアからの留学生であるタン・チェンターさんの受け入れに至りました。

これらの過程で、現地から今日のカムリエン高校との関係構築に御尽力くださった高山さんが、日本への一時帰国の際に、チェンターさんとの再会と併せ、本校にて講演会を行ってくださいました。

講演では、地雷処理活動などについてビデオや写真を交えながら紹介してくだ

さり、実際に地雷が爆発したシーンでは体育館内に爆音が響き、臨場感がありました。

現地での住民の暮らしぶりの紹介では「日本の常識が世界の常識ではない」事に触れ、「ゴミをゴミ箱に捨てる習慣がない」ことや「人の家の冷蔵庫を勝手に開けて物を持っていくこと」など、文化や習慣の違いについての話もあり、実際に現地に行って生活しなければ本当の国際理解にはならないことを改めて痛感させられました。

地場産業の育成については、本当の国際貢献とはお金だけを寄付することでは

なく、現地の人が働きそのお金で国を豊かにしていく手助けをすることであると説いていました。高山さんが推進している地雷処理活動も同様で、現地の人々と共に活動するという意義深さに、改めて教育の重要性を考えさせられました。興味深かったのは、地域の特産物であるダムロン芋での芋焼酎の生産と販売、流通を関係者と協議中であるというお話でした。カンボジアの主幹産業へ発展することを目標にしているそうです。

その他に、歴史的背景にも触れ、政府軍とポルポト派との内戦が、いかに残酷な戦いであったかを知りました。そして、その負の遺産を未だに住民が抱えていることを、チェンターさんが日本に来る前夜の、切ない家族とのやりとりを通じて語っていただきました。

講演では、高山さんの勇気あふれる行動力とカンボジアに捧げる情熱を感じました。我々も日本人としてプライドを持って生きる為に、何が出来たかを感じ、そして考え、行動していくことが大切であると感じました。



教育講演会



今年度は、八戸大学准教授のグロスマン先生、取手聖徳女子中学校・高等学校

校長の長野雅弘先生、八戸短期大学教授茂木典子先生、カンボジアで地雷処理の活動をされている高山良二氏と、様々な方面で活躍されている方々をお招きし講演会を開催した。『ヨガと心』、『女子教育』、『言葉』、『カンボジアの現状と活動状況』と内容は多岐に渡ったが、生徒、教職員にとっては貴重なお話であった。

教育講演会の意義は、いろいろな人の

お話を聞き、自己の成長に役立てることである。また、人の体験から感動を得たり、それを自らの生活に活かすように努力する姿勢づくりをすることである。人の話を聞く態度を身につけることが挙げられる。昨年度より、多数の講演を開催しているが、これらの観点でみると、よい影響が出ているものと考えられる。

これからの予定として、高校生にとって身近なテーマで講演会などを企画し、普段の授業では聞くことができないことを学べる機会を提供したいと考えている。

平成22年7月9日に第1回母親研修会が本校生徒会館二階で開催されました。今回は「最近の犯罪情勢や交通事故について」をテーマに、みなと白銀交番の上山和人所長さんに講演をしていただきました。上山所長さんの具体的事案を交えたお話は大変分かり易いもので、参加者の皆さんも、興味深く耳を傾けて、熱心にメモを取っていました。講演後には防犯などについて積極的な質疑応答がなされました。参加者からは「市の保健協力員と町内の保健委員をしています、今後の活動に大変参考になりました。」「具体的なお話を伺えたので今後役立てた

母親研修会

い。」「息子が自転車で通学しているので、今日教わったことをしっかり伝えたい」などの声が寄せられていました。日頃から身の回りの安全について考えておくことが必要のだと、改めて感じました。研修後は学食体験をし、デザート的美味しいクレープに大満足の研修会となりました。11月には第2回の母親研修会を予定しておりますので、多数のご参加をお待ちしております。



チアリーディング部 「東北大会を振り返って」

7月19日、宮城県岩沼市において、チアリーディング日本選手権東北地区予選が行われた。

この大会は規定演技と自由演技の合計点数でジャパンカップ出場権が獲得できる。規定演技は、出場全チームが同じ演技を行い、同調性や表現力が審査のポイントとなる。今年度はメンバー12名とい

う少人数での出場と成ったが、今年度で五度目の出場となる東北大会で初めて優勝することができた。チームの弱点であった規定演技でこのような結果を残すことができたのは選手の大きな自信に繋がったように思う。自由演技では若干のミスはあったものの自分達らしさを発揮することができ、今までで一番の演技で

あった。結果、規定演技優勝、自由演技二位、総合優勝でジャパンカップ出場権を獲得することができた。

自分たちの弱点を分かっているながら、なかなか改善できない苛立ちや焦りから、練習中チームがまとまらず、幾度となくミーティングを繰り返してきた。ひとりが全員を信頼し、全員がひとりを信頼できなければ演技は成功しない。

次はいよいよジャパンカップ（8月27日～国立代々木第一体育館）。三度目の挑戦である。演技成功のために、技術はもちろん、メンバーひとりひとりが今よりも更に強い気持ちを持たなければならぬ。目標であった舞台上で悔いを残さないよう、日々心身共に成長していきたい。また、周りで支えてくださっている方々への感謝の気持ちを忘れずに精一杯演技したい。



● 結 果 ●
総合優勝
(規定演技・優勝 自由演技・第2位)
ジャパンカップ出場権獲得
(2年連続3回目)

インターハイに出場！

レスリング部

第57回全国高等学校レスリング選手権大会が8月1日から8月5日の期間で沖縄・石垣島にて行われた。連日の猛暑日に加え、長期の滞在にどのチームもコンディショニングには苦労させられた。我がチームの団体メンバー50kg千葉も、計量前日に熱中症で倒れるアクシデントに見舞われ、団体戦を控え暗雲が漂った。迎えた団体戦、我々は2回戦からの出場であった。対戦相手は、三重県代表いなべ総合学園高校。部員が4名と少ない

が、個々の能力が高いチームである。我々は1勝した時点で勝利が決まる展開に、50kg豊巻、55kg蛭名、60kg佐藤と連敗してしまう。勝負の全ては66kg工藤に託された。1ピリオド目に得意のタックルが決まり先制点を奪うが、残り十秒で逆転される。追い詰められた2ピリオド目、一進一退の攻防の中で、勢いよく仕掛けてきた相手の攻撃を防ぐことができず、残り時間5秒で失点…。我々はインターハイの舞台で一勝もすることなくマットを降りた。実力勝負の世界に小手先が通用しないことは充分思い知らされた。今大会がただの経験にならないよう、これからも全国制覇を目指し、前進あるのみ。

○団体成績

二回戦 いなべ総合 ●3-4

○個人成績

60kg 佐藤 恵亮 1回戦敗退
84kg 古川 恭円 2回戦敗退
96kg 栗谷川 寛 2回戦敗退



柔道部

8月4日から12日まで、全国総合体育大会柔道競技が沖縄県那覇市の県立武道館で行われました。

12日に山梨県代表の甲府工業高校の西田香穂選手と対戦しましたが、結果は一本負けでした。試合開始直後相手に奥襟をもたれ苦しい姿勢になってしまい、その後、焦りから強引に大外刈りをかけましたが潰され、押さえ込まれてしまいました。

試合をしてみてまだまだ力をつけな

ければならないと実感しました。また、今回初めてのインターハイを通して自分に最も必要なことは、どんな相手にも力負けしない筋力をつけることだと思いました。私も相手の西田選手のように奥襟を取り、頭を下げさせて大外刈りや大内刈りを掛ける柔道をやりたいと思います。



敗戦後に観戦した試合からも、多くのことを学ぶことができ、敗北から学ぶことの多さを痛感しました。

これからの目標は、まず個人戦で3年間インターハイに出場することです。そして、今回は団体でインターハイに出場できなかったため、来年は団体戦でも出場できるように頑張りたいです。今回の経験を生かして次の新人戦では団体・個人戦共に優勝を目指して努力したいと思います。ご指導いただいた吉田先生、附田先生、打ち込み練習に帯同していただいた中村先輩をはじめとするチームメイトの皆さん、応援ありがとうございました。

(普通科進学コース)

1年C組 橋本智聡

ソフトテニス部

「晴天届く君の風 みなぎる闘志が夏に輝く」のスローガンのもと8月9日～12日、沖縄県総合運動公園において全国高校総体が行われ参加してまいりました。台風4号が発生し暴風雨で大会開催も危ぶまれましたが、大会当日は晴天に恵まれ熱戦が展開されました。

本校からは、渡邊(3年)・星山(2年)ペアが個人戦に出場しました。青森県予選を優勝し、シードされ2回戦からの出場でした。初戦の相手は大分県代表のベ

ア、大会の雰囲気とメンタル面の弱さから1-3とリードされ追いつめられましたが、勝ちに対する執念で粘りを見せ3-3のファイナルゲームに追いつくことが出来ました。しかし、簡単なミスが続き0-4、そこから驚異的なねばりで6ポイント連取、いよいよマッチポイント。チャンスボールが上がり誰もが勝ちを確信しました。ところがアウトと判断してスマッシュを打ちませんでした。普段であれば、アウトだったかもしれませんが、風に乗ってコートの中に入ってきました。大きなチャンスを逃したあとは一方的な展開になっての敗戦でした。相手チームは5回戦まで進みました。悔しさだけが残り、涙しました。

勝負に対する甘さが招いた結果ではありましたが、驚異的な粘りを見せた精神力は立派だったと思うと同時に、着実に成長していると感じました。8月28日・29日仙台で日本代表の東北ブロック選考会、9月には千葉国体とまだまだ続きます。今回の大会を良いステップにしてくれればと思います。最終日には選手と一緒に国際通り、沖縄の海を満喫し思い出に残る大会にしてもらいました。選手たちに感謝！



野辺地西高校

サイエンスフェスティバル ～「科学を通じて」～

今年も、5月16日(日)に小・中学生を対象に地域参加型の科学を勉強する、青森県原燃テクノロジーセンター主催の、サイ



エンスフェスティバルに協力(参加)しました。

本校のほかにも、高校をはじめ、関連する企業や大学などが多数参加し盛況でした。

その中で本校の出品は、ものづくりクラブで製作した手作りの「UFOキャッチャー」・「ロボットアーム」・「タワークレーン」で滑車を利用した重量変化の体験「スロットカー」で宙返りする遠心力体験、「電動ミニSL」・「ソーラー発電」など、子供たちに大人気で、行列が途切れることなく、みな

さんで楽しんでもらえました。当日は、補助の生徒も大変張りで、子供たちに説明をしました。すでに、次回に向けて新たな製作に意欲を燃やしています。今後とも、子供たちに遊びを通して科学への興味、関心の芽を育ててほしいと願っています。



のへび祇園まつりに参加して

本校が野辺地町の夏祭りに参加して11回目を迎えた。

今回のテーマは「平知盛 最後の大碓」。6月に山車小屋が建てられ、本格的な準備が始まった。連日の猛暑の中、準備があまりはかどらなかったようである。当日まで約2ヶ月をかけて生徒と教師が力を合わせて細部までの準備を進め、祇園囃子保存会の女子生徒の練習も熱の

こもったものとなった。保護者も当日に向けて事前に集まり生徒の食事の準備を進めた。また、亀田野辺地町町長が8月10日学校を訪れ、山車製作中の生徒、教員に対して激励していただいた。

祭り当日は天気もよく、毎年の事ながら沿道からはたくさんの方々の声援を受けていた。これが生徒達への何よりの励みになる。生徒諸君の神楽太鼓を打つ手、山車を曳く手に思わず力が入る。休憩時間には、保護者の方々が腕によりをかけて給食の時間。いつもながら手際の良さでたくさんの食事ができ上がり、生徒達はおいしそうに頬張っていた。

野辺地の短い夏の最後を飾る夏祭り。教師、生徒ともに山車を曳いて汗をかき、すばらしい笑顔の大切な思い出を経験し

たようである。

担当者は「参加して11年を数え、当時の写真や資料を見ていると、苦労したことが様々よみがえってきて大変懐かしく、何も分らず製作していたことなどが思い出されます。」と言い、また責任者は「猛暑の中の準備から始まり、11回目の夏祭り参加を安全に無事終えることができました。また、さまざま場面で参加・協力いただいた方々に、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。」と述べている。



空手道部

団体組手V9逃すも個人は上位独占！

・女子	団体組手	2回戦	対五所川原	4－0
		準決勝	対青森南	5－0
		決 勝	対青森北	1－3
	個人組手	優 勝	村山ちなみ	(3－4、野辺地中出身)
		2 位	川端 舞	(3－4、東通中出身)
		3 位	竹林 佳奈	(3－4、青森東中出身)
	個 人 形	優 勝	今野 茉奈	
		3 位	竹林 佳奈	(2－5、堀口中出身)
		4 位	川端 舞	
・男子	個人組手	4 位	新岡 昂貴	(3－4、青森西中出身)
	個 人 形	3 位	新岡 昂貴	



《高校総体の感想》

今年度の高校総体は、空手道部にとっても、3年生にとっても、忘れることのできない大会となりました。個人戦では今までにない好成績で、出場者全員が上位に入賞し東北大会の出場が決定、インターハイには3人の選手が代表権を獲得しました。

しかし、9連覇がかかった女子団体組手では、決勝まで順調に駒を進めましたが、残念ながら3対1というスコアで敗北。

夢のインターハイ出場を逃し、とても悔いの残るものとなりました。「勝ちたい」という気持ちはどこの高校よりもあったと思いますが、やはり、「連覇」ということが心のどこかで大きなプレッシャーになっていたと思います。全員で沖縄に行く夢をかなえることができませんでしたが、一人ひとりがすべての力を発揮した、内容のある良い試合だったと思います。

大会会場に駆けつけてくださった先輩やご父兄、そして先生方、たくさんの援を頂きまして本当にありがとうございました。

《今後について》

東北大会、インターハイと大きな大会が続きますが、女子団体組手では東北大会優勝、個人戦においても両大会ともに上位入賞を目指し、野辺地西校等学校空手道部の名前を轟かせられるように頑張ってきます。3年生にとっての最後の大会となるので、悔いを残さないように全力でぶつかっていききたいと思います。

そして1、2年生は、3年生が引退する最後の最後まで私達の背中を見ながら共に戦い、空手道部のプライドと伝統を守り、私達以上の活躍が出来るような選手となれるよう、頑張してほしいと思います。…(主将 新岡 昂貴より)

中学生のみなさん、ようこそ ～野辺地西高校の体験入学～

先頃、7月30日(金)本校の第1回一日体験入学が行われた。

第2回は部活動体験を主に8月21日(土)に行われる。第1回は部活動体験を除く10テーマ、33中学校、中学生、保護者、引率教師合わせて227名の参加であった。第2回は、19中学校、70名の参加予定である。

本校の体験入学は「ものづくり体験」を中心とする系列単位の学習体験、空手道部やサッカーなどの部活動体験が主な特色といえる。人間福祉系、教養進学系、工業技術系、オートメカニク系のそれ

ぞれの授業内容・実習内容、そして部活動の練習体験が理解しやすい形となっているので、取り組みやすい内容となっている。

体験入学の中心である体験学習は午前中に50分2テーマで行なわれ、参加した中学生は希望するテーマにそれぞれ分かれて体験学習に励むことになる。

各系列の体験学習のテーマの示すと「延長コードの製作」、「テスターによる抵抗コンデンサなどの実測」、「君もタイヤマン」「四輪バギーの調整」、「新聞紙でエコバッグを作ろう」、「高齢者のため

のデザート作り」「キーワードによる文章読解法」、「美味しい！電気パンを焼こう」、「ワード・エクセルの文書作成にチャレンジ」「牛乳からアイスクリームを作ろう」である。

第1回に参加した中学生の感想は、「生徒の皆さんや先生方がとても明るく、親切でとても雰囲気の良い学校だと思った」、「先輩方が色々教えてくれて楽しかった」、「体験学習はとても楽しくためになり良い体験になりました」など好評であった。



八戸短期大学附属幼稚園

夏 期 預 か り 保 育

「おはよう」、園児の元気な挨拶で夏期預かり保育の1日がスタートします。

午前や午後だけの利用や、朝7時30分から夜7時までの利用もあります。遊び相手や遊び場所、保護者のお勤めなど家庭の諸事情に対応し、子育ての相談もきめ細かく行い、保護者のニーズにお応えしているのが本園の預かり保育です。



1日平均約80名が参加する夏休み中の預かり保育は、特ににぎやかで活気にあふれています。夏期預かりならではのカリキュラムを取り入れた、プール遊び、しゃぼん玉遊び、水遊びなどで「シャワー、もっとかけて」「大きなしゃぼん玉」と、歓声をあげて夏の遊びを楽しむ子ども達。暑い日のおやつ、スイカ、ゼリー、アイスも大好評です。

休憩タイムや給水タイムを設け、子どもの体調に細かく心を配り、子ども達が充実した時間を過ごせるよう職員全員で取り組んでいます。

「さようなら」「バイバイ」「また明日ね」、明るい声と笑顔の見送りで、預かり保育の1日が



終わります。

子どもに、保護者の方々に、いつも、いつまでもやさしい、八戸短期大学附属幼稚園。

子ども達の健やかな成長を見守り、保護者と教師が力を合わせて、楽しく子育てできる支援をこれからも続けて参ります。

聖アンナ幼稚園

知っていますか？自然からもらっている宿題

小学校以上の子の宿題は誰もが当然のように気にし関心があるのに対し、幼児期の課題は見えにくく気に留めないのがほとんどではないでしょうか。

それゆえつい大人は、良かれと思うことをあの手この手で子どものためになると思いこみ一生懸命させてしまうように思います。

子どもにとって、基本的に大切なことはなんでしょうか。

それはまず幼児期は特有の特徴的エネルギーを知り、そのエネルギーを出し切り獲得しなければならないことへの理解です。

子どもが自分で成し遂げなければいけない「宿題」を自然からもらっていることを忘れてはいけません。

子どもがよく動くのは、もともと内在的に備わっているものに準じてのことです。でも着々

と育ち人間らしくなる努力をしているのですから邪魔してはいけません。子どもは実に手間隙がかり大人のようにいかないのがほとんどです。でも親の希望だけで押し付けたり、変な奴隷的なお仕えではなく、子どもの精神（心）に沿う形で助ける、子どもの自然な精神にお仕えする事が、実は大人に課せられた「宿題」なのです。



子どもが自然から「生命の課題」を与えられている時期に、親も「生命に使えることの課題」をもらうのです。もっと具体的に知りたい方は、是非この機会にモンテッソーリの本を読んで見ませんか。



第二しなのめ幼稚園

食べるをつくる・自然をたのしむ

体作りの源は食べ物。人類最初の文明は、食べる為の採集・狩猟や、栽培ではないでしょうか。今年の園の食育計画はいろいろな食べ物を食べながらきらいな食べ物にも挑戦。楽しく食べるための決まりを知ること。野菜栽培から食するまでの体験から「ありがとう」の気持ちをもつこと。に取り組んでいます。

新入園児がやっと園になれる頃の5月。

園の前の地域の方からお借りした栽培畑は夏野菜等の苗を植える時期になります。じゃがいもの種芋や、さつまいもの苗を手にした子どもたちは嬉しそうに、畑へでかけ「早く大きくなあれ」と声をかけながら土をかけ植え付けをしました。また、この時期にみずみずしい果実といえば「いちご」です。園外保育で南郷区のいちご園に出かけ自分で

おいしそうな甘い果実をみつけながらのいちご狩りを楽しみました。もちろん食べた後のへたはペットボトルに入れ、他の方にも気持ちよく綺麗なハウスに戻す気配りも忘れません。

6月には、年長児が本園教師の田んぼからいただいた「まっしぐら」の苗をバケツで育てる米作り。米は日本の数少ない自給穀物。ご飯は体作りの主役であり

そのご飯の元を自分達で育てるという驚きと喜びを子ども達に伝えたいと考えています。この夏は、小さな苗がぐんぐん育って収穫が楽しみです。

人としての豊かな発達には自然はなくてはならないものです。園では、いろいろな機会を捉えながら子どもたちが自然とかかわること、繋がった活動を十分に楽しむ体験して欲しいと思っています。



びわの幼稚園

英語・スポーツ教室開催する

野辺地町内SLバスが走る



八戸短期大学附属びわの幼稚園では、今年度から年長児の教育内容に英語教室、スポーツ教室を取り入れました。

いずれの教室も短期的、突発的なものではなく、英語教室においては隣接する光星学院野辺地西高等学校より英語の専門教員を招き、年間18回の教室を予定しており、もうすでに6回の教室を実施しました。

これまでの学習内容は、「アルファベットを覚えよう」、「1から12までの数字を覚えよう」というテーマで、最初は園児、教師ともに緊張しておりましたが、今ではすっかり打ち解けて一緒にABCの歌

を歌い、絵を描いたイラストボード、時計の文字盤数字などを活用しながら楽しく英語教室が開催されております。

スポーツ教室は講師に今年3月卒園した園児のお父さんをお迎えし、冬季間を含む年間10回のサッカー教室を予定しております。

この教室もこれまでに3回開催され、ルールに従い、園児たちは元気にサッカーボールを追いかけ走り回っておりました。

特に、全員に配布されたゼッケンの色別に基づいた集団での活動、指導者の指示を守らなければならない決まりごと、友達と協力することの大切さなど汗をいっぱい流しながら学習しました。

園児からは「またやりたい」などと好評な教室で、残り7回のサッカー教室を楽しみにしておりました。

また、これまで園児の送迎は園児専用のスクールバスで行ってまいりましたが、



今年度、「びわの幼稚園に通う園児に夢を」と言うご父母の希望から、八戸短期大学附属幼稚園管理のSL号を運行できないものか関係部署に確認したところ快諾をいただき6、7、9、10月のそれぞれ4日間、SL号が野辺地町内の園児の送迎をすることとなりました。6、7月のお迎え時には片手にビデオカメラを携えたご父兄の姿が各玄関前で確認され、喜ばれました。



光星学院イノベーションプログラム（基金） 寄付者ご芳名

平成19年度以降寄付金累計額 111,247,143円

平成21年度 24,127,600円 (寄付協力者302名)

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

次の方々よりご寄付を賜りました。皆様の温かいご支援に感謝申し上げます。

(順不同、敬称略)

[illegible]



創立30周年を迎えてー八戸大学



昭和56年4月、青森県南初の文科系大学として開学した八戸大学は平成22年創立30周年を迎えた。昭和34年に学校法人光星学院が創立されて22年目にして開学した八戸大学は、中村由太郎初代理事長の立体的総合学園構想の頂点として、北東北屈指の産業都市である八戸にとって欠かすことの出来ない商学部商学科の単科大学としてスタートした。

爾来、「神を敬し、人を愛する」という建学の精神の下で地域に根ざし、地域とともに歩む大学として、「建学の精神と商学との融合」を教育理念として、教育・研究活動を展開してきた。

20周年を迎えた平成12年以降、総合研究所市内オフィスの開設（平成14年）、商学部商学科からビジネス学部ビジネス学科への名称変更（平成16年）、人間健康学部人間健康学科の開設（平成17年）など、時代や地域のニーズに応じた実学的教育・研究活動にシフトし「八戸地域をキャンパスにー」を標榜し、八戸広域の文化・経済の発展に貢献する高等教育機関として、その役割を果たしてきた。

30年の歩みを振り返り、そして新たな歩みの第1歩を踏み出すべく、記念式典・祝賀会が10月29日に挙行される。

当日は我が国におけるカトリック教育の第1人者である高祖敏明先生（学校法人上智学院理事長）による記念講演も行われる。



開学間もない頃のパフレット



10周年記念誌と20周年記念誌



実習館前の初代理事長像



平成20年に竣工した総合実習館

＜創立30周年記念講演＞

平成22年10月29日（金） 15:00～（式典終了後）

演 題：「高等教育機関における心の教育」

講 師：学校法人上智学院理事長 高祖敏明 先生

公 開 講 座	記 念 イ ベ ン ト 等									
「八戸地域医療セミナー」 平成22年2月19日(金) 15:00～ 「地域医療の一層の発展のために」 講師 明石 勝也(聖マリアンナ医科大学理事長・学長)	30周年記念ロゴマーク作成 	OBのプロ野球選手による トークセッション 平成22年12月予定								
「加藤三彦氏によるバスケットボール講演会」 平成22年2月26日(金) 19:00 「これからの指導者に求められるもの」 講師 加藤 三彦 氏(元能代工業高校監督)	ご当地映画のロケ誘致 平成22年5月16日 「ルパンの奇巖城」 監督 秋原正俊	証券経済学会 主催校 平成22年11月6・7日								
「八戸ベンチャーミット2010」 平成22年6月4日(金) 17:00～ 八戸パークホテル 「Right to Challenge, Freedom to Fail」 ～チャレンジする権利と失敗する自由～ 小池 聡 氏(ビットバレー提唱者 3Di 株式会社代表取締役社長) 他	ホームカミングデー 同窓会大会 平成22年10月30日	全国私立大学 教職課程協議会 当番校 平成22年11月20日								
「地域健康作りセミナー」 <参加者募集中> 平成22年9月20日(金) 14:00～ 八戸商工会館 「生命(いのち)と健康を支える一看護の現場からー」 講師 陣田 泰子(聖マリアンナ医科大学 執行役員 統括看護部長)	八戸大学外郭3団体(後援会・父母の会・同窓会)より 光星学院イノベーションプログラム(基金)へ <table><tr><td>寄付金総額</td><td>65,000,000円</td></tr><tr><td>後援会</td><td>33,000,000円</td></tr><tr><td>父母の会</td><td>25,000,000円</td></tr><tr><td>同窓会</td><td>7,000,000円</td></tr></table>		寄付金総額	65,000,000円	後援会	33,000,000円	父母の会	25,000,000円	同窓会	7,000,000円
寄付金総額	65,000,000円									
後援会	33,000,000円									
父母の会	25,000,000円									
同窓会	7,000,000円									